

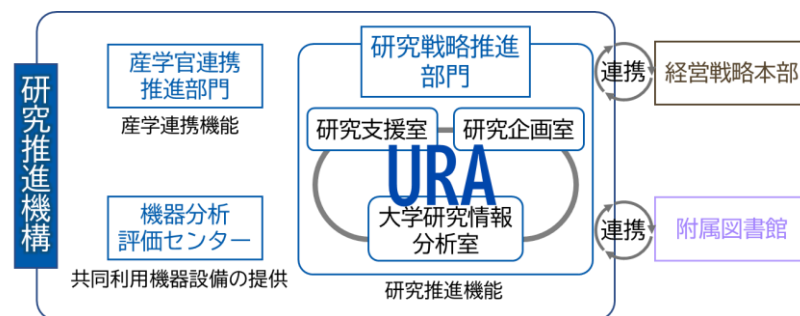
大学名 横浜国立大学

表題 中規模大学の機動力で研究のライフサイクルを包括的に支援するURA

横浜国立大学では、シニアURA1名およびURA5名(令和6年9月時点)が少数精鋭で協力しながら、約600名の研究者に対して研究支援を行っています。研究活動の開始から研究活動サイクルに沿った様々な支援を展開し、本学の研究力の強化に繋がる、よりよい研究環境の創出を目指しています。

多くの活動は研究推進機構にて企画・実施されていますが、現在では経営戦略本部や附属図書館へもURAが配置され、高度な専門性をもつ人材として全学の活動に幅広く貢献しています。

⇒ 研究推進機構の研究支援 (参考URL: <https://www.ripo.ynu.ac.jp/researcher/>)

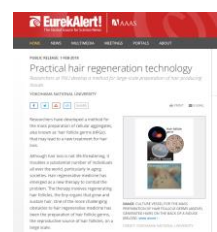


研究情報分析

論文や外部資金等の分析により研究活動状況を把握し、研究戦略立案に必要なエビデンスを提供しています。定量化が難しい研究活動についても分析手法を検討し、研究力評価指標の開発に努めています。

外部資金獲得支援

博士課程後期学生を含む外部資金獲得初心者から大型資金獲得を目指す研究者までニーズに合わせた支援として、セミナーの企画・開催、申請書・プレゼン資料のブラッシュアップ、模擬面接等を実施しています。



研究連携の促進

研究者マッチングイベント(研究×縁結び企画)の開催、YNU研究拠点やYNU国際ネットワークハブ事業を通じ、研究者間の学際的な交流や研究の活性化を促す場の提供とグループ形成を支援しています。

研究広報

ウェブサイトの英語化や国際プレスリリース発信など、研究情報を世界に向けて発信しています。



URAと附属図書館の連携によるオープンサイエンスの推進

研究成果の効果的な展開を図るため、論文のオープンアクセス化経費支援を中核とした論文投稿料等支援に取り組んでいます。また、附属図書館と連携しオープンサイエンスを推進しており、学外有識者も交えた「オープンサイエンスワークショップ(平成28年)」の開催をはじめ学内での議論を深め、平成30年2月には、オープンアクセス方針を策定しました。



さらに国の科学技術政策の動向も受け、令和6年度から専任URAを附属図書館に配置し研究データ管理・公開支援を行っています。7月のオープンアクセス加速化事業の採択を追い風に、研究データ管理の支援による研究インテグリティの確保と研究の成果公開を促進することで本学研究者の国際的なプレゼンス向上につなげていきます。